

身近な情報をお寄せください

総務課行政係 ☎74-3132

✉gyousei@town.kanra.lg.jp

詩に思いを込めて ふるさとコンサート

第33回甘楽町ふるさとコンサートが2月26日に町文化会館で開かれ、童謡作詩コンクールの入賞作品の発表と表彰式が行われました。

町内小中学生を対象とした同コンクールには、素直な気持ちや想像力を生かした表現力豊かな作品390点の応募がありました。

かぶらマンドリンクラブ、さくらコーラス、コールオーブ、グリーンホーンズオーケストラがそれぞれ入選作品に曲をつけて発表したほか、各団体の演奏や合唱も披露されました。また、特別出演の富岡市民吹奏楽団による



入選者の皆さん。左から酒井さん、青木さん、中野さん

◎童謡作詩コンクール入賞者(敬称略・学年は4年度)

入選

「からくり人形」	中野 菜	小幡小6年
「たんぼみち」	長岡虎生	新屋小2年
「ハイタッチ」	青木桜月	甘楽中1年
「まねっこ」	酒井心優	甘楽中1年

佳作

「いってみたいな」	菊池梨心	小幡小2年
「天気の世界」	有井優真	小幡小6年
「なってみたいな」	渡邊莉央	新屋小6年
「さんかくおにぎり」	近藤穂乃叶	小幡小2年
「とんでみたいな青い空」	桑原琉華	小幡小3年
「将来の夢」	大河原衣恋	甘楽中1年
「夏の青空」	谷川愛里	甘楽中3年
「パンダのレストラン」	萩原陽彩	甘楽中1年
「白熱の夏」	黒澤数真	甘楽中1年
「ボールの気持ち」	新井理仁	甘楽中1年



入選作品に各団体がメロディをつけて楽曲を発表。
写真は長岡さんとグリーンホーンズオーケストラの皆さん



入賞作品はこちらから→

学びやを築立ち新たな道へ

甘楽中学校の卒業式が3月13日に同校体育館で行われ、111人が新たな一歩を踏み出しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により制限の多い学校生活の中、創意工夫で何事にも積極的に取り組んできた生徒は、入学当時に比べ心も体も立派に成長し式に臨みました。卒業生が合唱する場面では涙をこらえ歌う姿が印象的で、会場は感動に包まれました。



在校生に見送られ退場する卒業生



卒業記念合唱「友～旅立ちの時～」



卒業証書授与

家庭の力考える 家庭の日推進大会

第16回かんら家庭の日推進大会(町青少年育成推進員連絡協議会・町教育委員会主催)が3月5日、町文化会館で開かれました。

大会は、生活の基盤で家族の心のよりどころでもある「家庭」の役割を改めて考え、青少年が自身の行動に責任と社会の一員として自覚を深めることを目的として実施するもので、町内小中学生を対象とした「家庭の日」「少年の日」の標語や作文など各種コンクールの表彰式が行われました。

また、アトラクションとして甘楽中学校吹奏楽部の演奏が披露されました。

入賞した標語・作文はこちらから→



「家庭の日」標語



「家庭の日」作文



「少年の日」標語

各部門の最優秀賞の皆さん

読書で得た感動を言葉に 感想文コンクール入賞



「お気に入りの一冊をあなたへ読書推せん文」団体賞と個人賞の須田さん(左)

「お気に入りの一冊をあなたへ読書推せん文コンクール」((公財)博報堂教育財団主催)において、福島小学校が団体賞を、個人賞には同校の須田希乃香さん(4年)が選ばれました。

このコンクールは、お気に入りの本の中で得られた感動や感想を文章化して他の人に伝えることで、表現力などを育成することを目的として開催されており、同校では全学年が授業で取り組みました。

また、夏休みの宿題の一つとして6年生が取り組んだ「マンガ感想文コンクール」((一財)出版文化産業振興財団主催)においても、福島小学校が団体賞を受賞しました。

このコンクールは、絵とセリフから人物の感情が伝わり感情移入しやすいマンガの特性を生かし、児童の読書意欲を育てようと実施されています。



マンガ感想文」団体賞

空手道の全国大会で優勝 初代覇者に 林さん

第2回全日本少年少女空手道選抜大会が2月18・19日によつ葉アリーナ十勝(北海道帯広市)で開催されました。小学校4年生女子個人組手(1対1の対戦形式)で、県予選、関東予選を経て出場した林 愛莉さん(新屋小)が優勝しました。

全国各地区に開催地枠を加えた10地区の代表選手が出場した同大会で、小柄ながらも持ち前のスピードを生かした攻撃を繰り広げ見事トーナメントを制しました。第1回大会は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったため、初代優勝者となりました。

姉の影響で空手道を始めたという林さんは「目標としていた全国大会で優勝できました。連覇を目指してこれからも頑張ります」と新たな目標を掲げました。



試合が終わり笑顔を見せる林さん

入園者50万人達成！国指定名勝 楽山園



記念品の入った「五十万両箱」を贈呈しました

平成24年3月24日に開園した国指定名勝 楽山園は、3月2日、開園から10年目で入園者数50万人を突破しました。記念すべき50万人目となったのは、神奈川県^の大学に通う竹内誠二郎さんと小野恵蓮さん。

茂原町長、森平副町長、近藤教育長から記念品などが贈られ、祝福に駆けつけた「かんらちゃん」とともに記念撮影を行いました。

2人は「50万人目と聞いて驚きました。初めて訪れましたが、自然豊かなところを散歩するのが好きなので庭園内をゆっくり散策します」と話しました。

キラッとかんら観光キャンペーン始まる

国指定名勝 楽山園では3月19日、開園11周年記念の「春の茶会」が園内の凌雲亭で開かれました。

茶会は先着100人限定で行われ、裏千家篠原社中の皆さんがたてたお茶を飲み、日本文化を楽しみました。

複数の茶屋を配し茶人としても知られていた織田氏が築いた庭園でゆったりとした時が流れる中、甘楽の春を感じる一日となりました。

また、「甘楽の雛祭り」が旧甘楽第二中学校校舎をメイン会場に町内4カ所で始まり、4月9日まで展示されています。

町民の皆さんから譲り受けた約2,000体のお雛様が並び、時代や作者によって異なる表情に見入ったり写真を撮ったりするなど、多くの来場者が楽しみました。



春到来！笹森稲荷神社 春季例大祭



笹森稲荷神社の春季例大祭が3月11・12日に行われました。

11日には子どもたちによる稚児行列やみこし、屋台がお囃子^{ほやし}の音とともに福島地区を練り歩きました。翌12日には太々神楽の奉納や露店市が開催され、大勢の参拝客でにぎわいました。



瓦職人の技と心を表現し総務大臣賞 山田さん



(一社)全日本瓦工事業連盟主催の「全瓦連技能グランプリ2023」が3月4・5日にGメッセ群馬(高崎市)で開催され、群馬県代表として出場した山田正志さん(山田瓦店・福島)が総務大臣賞を受賞しました。

同大会には、国家資格の1級かわらぶき技能士10人が出場。2日間という限られた時間で、屋根を模した架台に図面を見ながら瓦をふき、正確さや仕上がりの美しさなどを競いました。

山田さんは「緊張したが周囲の応援もあり、入賞することができました。瓦文化を残し多くの人に瓦屋根の魅力を再認識してもらうためにも技術を磨き続けたいです」と語りました。

介護の未来をともにつくろう かんら会

特別養護老人ホーム・シルクなどを運営する社会福祉法人かんら会は3月7日、甘楽中学校の1年生を対象に「知ってもらおう介護の仕事」と題した授業を行いました。

この授業は、介護や福祉の仕事に興味・関心を持ち、進路や就職先の選択肢の一つとして捉えてもらうことで将来的な人材不足の解消につなげるための取り組みです。

「介護職は大変というイメージがあるかもしれないが、それ以上に喜びや魅力がある」「一緒に時間を過ごすことが誰かの安心につながるのがうれしい」「高齢者に限らず相手の気持ちを考え行動する、それを繰り返すことが大事」など、職員が経験談ややりがいについて話しました。

授業を振り返り松本結乃さんは「同じ“とき”を過ごす大切さを知り、まずは自分の祖父母の話をよく聞いたり、困っている人のお手伝いをしたいと思います」と感想を話してくれました。



麻痺がある人の着替えの介助を実演する職員(右上写真)の説明を受け挑戦する生徒

書道を通じた文化交流 国際交流振興協会



条幅紙に太筆で清書し、最後に名前を入れて完成させました

町国際交流振興協会(長岡昭宏理事長)は3月19日、町公民館で日本文化への理解を深めてもらうことを目的に外国人を対象とした「書道体験」を行いました。

ALT(外国語指導助手)や町内事業所で働く8人が参加し、同協会理事の井野口美代子さん(小川)から熱心な指導を受けながら筆を握り、「桜」「友」「ありがとう」などに挑戦しました。

ネパール出身のサンジップさんは「初めての体験で難しかったけれど、筆を使い書くことは面白く楽しかったです」と日本語で話しました。

食 品衛生の向上に努め県知事表彰 山本さん



令和4年度食品衛生大会が2月1日、昌賢学園まえばしホール(前橋市)で開かれ、菓子店を営む山本雄三さん((株)菓子工房こまつや・金井)が、食品衛生功労者として群馬県知事表彰を受賞しました。

これは、平成21年から食品衛生指導員として、年2回一斉巡回指導を行うなど地域の食品衛生普及の推進向上と食中毒の未然防止活動に尽力され、その功績が高く評価されたものです。

甘楽富岡食品衛生協会の副会長でもある山本さんは「この地域で食中毒は発生しておらず、“食中毒ゼロ”の更新を目指し活動を続け、これからも地域の食品衛生事業に貢献していきたいです」と受賞の喜びを語りました。

地 域スポーツの振興に尽力 金井さん

(公財)群馬県スポーツ協会主催の県スポーツ協会長賞の表彰式が2月25日、ALSOKぐんま総合スポーツセンター(前橋市)で開かれ、金井直二さん(小幡)がスポーツ功労者賞を受賞しました。

ソフトテニス歴60年を迎えた金井さんは、競技を続ける傍ら地域の講習会講師やジュニア選手の強化育成、中学校・高校の外部コーチを務めるほか、県ソフトテニス連盟甘楽支部長や町ソフトテニス連盟会長、町体育協会常任理事などを歴任し地域スポーツの振興に貢献されています。

金井さんは「強くなりたいと練習に励む子のサポートをしてきましたが、その成長を見るのが楽しみで長年続けてこられました。自分の体が続く限り、ソフトテニスの魅力を伝えていきたいです」とさらなる決意を語りました。



農 園にフルーツの音が響きわたる



「コンドルは飛んで行く」「荒城の月」などを演奏

甘楽ふるさと農園管理組合(吉田恭一組合長)は、2月17日に同農園クラブハウスでミニコンサートを開催しました。

元高校音楽教師の荻原輝明さん(富岡市)によるフルーツの演奏が行われ、集まった約40人が優しい音色に聴き入りました。その後、フルーツの音に合わせ「青い山脈」や「いつでも夢を」などを歌い、楽しいひとときとなりました。

吉田組合長は「コロナ禍で活動を自粛してきましたが、今後は催し物を再開するなど農園が地域の文化交流の場になるような運営をしていきます」と話しました。